

手賀沼・印旛沼・根木名川圏域
流域懇談会
第2回印旛沼部会

意見見解について



文化財



意見

印西市西根において、今から約1,000年前の水路跡が検出された。このような発掘成果を河川整備計画に資料として活用してほしい。

文化財



回答

河川整備計画本文には、簡単ですが流域の歴史を記載し、人と川の関わりを追加いたしました。

P3

文化財



本文記載内容

印西市西根において、今から約1,000年前の奈良・平安時代につくられた水路跡も発掘されており、人と川との関わりが永きにわたっていることが伺えます。

水質

印旛沼への導水



意見

- ◆手賀沼が浄化されたのは導水である。なぜ、印旛沼は導水できないのか。
- ◆沼の流動化について記述したらどうか。

水質

印旛沼への導水



回答

当分、汚濁負荷に関する流出抑制対策の徹底に努めるべきと考えます。なお、導水については、印旛沼水循環健全化会議と連携した水質技術検討会の中で検討することになっていますが、基本的には流域の問題は、まず流域で取り組むことが必要と考えます。



P11

水質

印旛沼への導水



本河川整備計画は、現時点の流域の社会状況・自然状況・河道状況に基づいて策定したものであり、策定後もこれらの状況の変化や新たな知見・技術の進捗などの変化により、適宜見直しを行うものとします。

全般

河川整備の戦略



意見

◆治水面ですが、印旛沼流域の河川整備をしていく上での何か戦略みたいなものをもう少し書かれてはどうか。

全般

河川整備の戦略



回答

整備の重点をどこに置くかは重要だと認識しています。印旛沼圏域は、整備水準が低いので来年度から他河川の事業費を分配して事業の進捗を図る予定です。
特に、現況治水安全度が低く資産の集積している鹿島川と高崎川、印旛放水路（下流部）の3河川を緊急的に整備する予定です。

P14,24

全般

河川整備の戦略



本文記載内容

◆水害により生じる直接的な資産被害が高い市街地について重点的に浸水被害の軽減を図るものとし、概ね50年に1度発生する洪水を安全に流下させることを目標とします。
◆優先度の高いものを重点的に進め、効果的な事業の実施に努めます。

全般

河川整備の戦略



意見

印旛沼周辺で一番の問題が高崎川と聞いているが、高崎川の浸水被害を軽減するために、例えば、大和田機場を有効に活用して、印旛沼の水位を洪水が来る前に下げることが自由でできるようにしてはどうか。

全般

河川整備の戦略



回答

印旛沼の水位を洪水前に下げる対策は、既に水資源機構に協力して頂き印旛沼の治水安全度の向上に努めています。なお、深刻な浸水被害の出ている高崎川では、検討の結果、高崎川の改修が不可欠との結論を得ていますので改修のほうを早く進めていかなければと考えています。

P14

全般

河川整備の戦略



本文記載内容

印旛沼の迎洪水位の調整などの緊急的な対応により、治水安全度の向上に努めていきます。

水質



意見

(2) p 17 12行目

「圏域内の河川は昭和・・・水質が改善されています。」は、具体的に何処（手賀沼、印旛沼？）で実施したかを明確に記述すべきでないか。

水質



回答

河川浄化施設は、大堀川、大津川(2箇所)、桑納川で実施、導水事業は手賀沼と大堀川で実施しています。



P17

水質



本文記載内容

圏域内の河川は昭和40年代の高度成長に伴い水質が悪化し、平成12年度まで、手賀沼ワースト1位、印旛沼が同2～3位になるほど汚濁が進行しましたが、「北千葉導水事業」による手賀沼と大堀川への浄化用水導水(10m³/s)、浄化施設の設置(大堀川、大津川、桑納川)、浚渫、帯留水の流動化対策、県や市町村による流域下水道の整備が進められ、流入河川を中心に水質が改善されています。

自然環境

沈水植物の回復



意見

ヨシやマコモなどの抽水植物の保全があげられているが、水際の植生だけではなく、沈水植物やアサザなどの浮葉植物もたくさんあったのが、現在は無くなってしまったが、これらの回復を目指していただきたい。

自然環境

沈水植物の回復



回答

沈水植物の生育環境を整えるためには水質の大幅な改善が不可欠ですので、「印旛沼水循環健全化会議」や「水質保全協議会」を通じて水質改善に取り組んでいきたいと考えています。

P18

自然環境



沈水植物の回復

【現状と課題】

手賀沼と印旛沼は水生植物の生育場となっており、かつては、岸辺の浅いところからヨシ、マコモ、ヒメガマ等の抽水食物が繁茂し、水深が増すに従って、ヒシ、アサザ等の浮揚植物、次いで水中に葉を広げる沈水植物が繁茂していました。今では、環境省レッドデータブック絶滅危惧1A類に指定されているガシャモク、ムサシモ、絶滅危惧1B類に指定されているジョウロウスゲ、トリゲモ、イトトリゲモなどの貴重種が生息しています。

P20

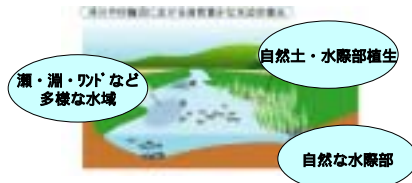
自然環境



沈水植物の回復

【目標】

かつての手賀沼や印旛沼は、沈水植物や浮葉植物などの水生植物の宝庫であり、河道改修にあたっては、このような生息・生育環境について可能な限り保全・復元を図るものとします。



自然環境



水域の連続性の確保

河川整備計画を読めば、河川改修はこうやるんだなというところはわかりますけれども、総合的な環境ということについてはほとんど触れてない。

自然環境



水域の連続性の確保

行政が、効率的な事業展開を重視してきた結果、環境に関する弊害が生じてきたことも事実です。今後は、環境にも配慮していくことが必要です。

P18

自然環境



水域の連続性の確保

【現状と課題】

水田の乾田化や末端水路の改修によって水域の連続性が失われ、ドジョウ、ナマズ、メダカなど河川と水田を行き来するような種は減少しています。



自然環境



貴重種

印旛沼には、絶滅危惧1B類に指定しているサンカノゴイが繁殖しています。それからオオセッカの観察記録があるようです。この記述がないので追加していただきたい。

自然環境

貴重種



回答

貴重種については、そればかりが重要視されてしまうおそれがあることから、記載を控えていましたが、追記いたします。

P18

自然環境

貴重種



本文記載内容

水面、ヨシ原、斜面林と連続する自然は豊かな繁殖場を提供しており、環境省レッドデータブック絶滅危惧ⅠB類のサンカノゴイやオセッカの繁殖も確認されています。

水質

農地からの負荷軽減



意見

農地から出る富栄養化の物質をどういうふうに扱うかということを考えていかなければいけない。



水質

農地からの負荷軽減



回答

- ◆農業者も水を汚しているのは事実だと思います。大きな原因が、田植え前の代かきをしてその水が肥料分を持って流れることにあります。
- ◆印旛沼の汚れた水を田んぼを通すだけでも何割か浄化しているというデータも出ています。現在、国営かんがい事業、印旛沼2期地区という計画を進めており、この中でも汚染された水を印旛沼に排水しない方法を検討課題としています。

P20

水質

農地からの負荷軽減



本文記載内容

平成14年度の手賀沼と印旛沼の水質はともに10 mg/lで、平成17年度の目標値を達成しました。しかしながら、水質の環境基準値は未達成であることから、関係機関や地域住民と連携を図りながら、引き続き水質浄化対策を推進していくものとします。

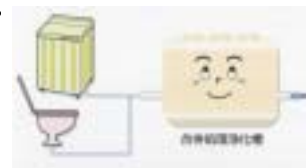
水質

下水道の普及推進



意見

汚染そのものは、家庭雑排水の流入によって進んでいると思うので各自治体に公共下水道の促進及び調整地域については合併浄化槽の設置等の一層の推進を明言すべき。



水質

下水道の普及推進



回答

水質問題は、流域全体で取り組まなければ、改善されないものと認識しております。

P21

水質

下水道の普及推進



本文記載内容

関係市町村や関係部局と調整を図り、水質監視体制の充実、事業者への自主監視体制の指導を進め、水質の汚濁要因の軽減を図ります。さらに手賀沼ピオトープなどの環境学習の場を利用した啓発活動を推進し、**河川管理者、関係機関及び地域住民が協同**で水質浄化に努めます。

自然環境

連続性確保



意見

昔は水域の連続性があったが、今は連続性が非常に少なく、魚種は減っているのです、ここの表現(P18)はもう少しお考えいただきたい。

自然環境

連続性確保



回答

水田の乾田化や末端水路の改修など連続性の減少は明らかです。本文を訂正いたします。

P23

自然環境

連続性の確保



本文記載内容

【目標】

取水堰や橋梁などの河川横断構造物に対しては、魚類の移動の阻害や植物の生育など河川環境の障害とならないように施設管理者と調整し、適切な処置を行うとともに、改築や新設の際には適切な指導を行うものとします。

親水環境

拠点の整備



意見

環境学習、情報発信、親水性、環境、その他の面で、拠点となるセンターを作りたい。

親水環境

拠点の整備



回答

河川管理施設でない建築物は河川管理者によって設置でき無いこととなっていますが、階段護岸や親水デッキ等の拠点整備については、今後の動向を見て検討していきたいと考えます。

P23

親水環境

拠点の整備



本文記載内容

治水を目的とした河川整備の際には、管理用通路を整備し、散策などに利用しやすいような環境の創出を図るとともに、公園や住宅地などの多数の住民が集まる施設や地域に隣接する河川では、水辺に近づける階段の整備、子供が安心して遊べる浅瀬の整備などを推進し、住民が川に親しめる拠点の整備に努めるとともに、埋蔵文化財の所在が確認されている区間について、施工時に適切な配慮を行うものとします。

全般

治水優先



意見

懇談会の発言の中で学識経験者・住民の声も確かに尊重すべきだが、現実の問題として目的は先ず治水事業の一言につきる。

全般

治水優先



回答

河川管理者として1番の責務は「住民の生命と財産を守る」ことにあると考えていますが、河川工事に際しては環境へ配慮することもあわせて行うこととしています。

P24

全般

治水優先



本文記載内容

施行の場所は、洪水に対する安全を優先的に考慮すると共に、自然環境や親水環境等の面にも配慮し、河川工事を計画的に進める区間は、沿川の人口や土地利用、災害の発生状況、既往計画や事業の実施状況を鑑み決定し、優先度の高いものを重点的に進め、効果的な事業の実施に努めます。

治水

資料の訂正



意見

(6) p 27 2行目

「印旛沼は、印旛沼開発事業によって、概ね5年に1度の洪水に対応できる規模で改修が完成していますが、」の記述があるが、印旛沼開発工事誌によると30年確率3日雨量で決定しているとのことであるが、整合はとれているのでしょうか。

治水

資料の訂正



回答

印旛沼は、30年に1度の洪水に対応できる規模で改修が完成しましたが、流域の市街化の進展等や堤防の沈下に伴い、現在では概ね5年に1度の洪水に対応できる規模まで、治水安全度が低下しています。そのため、再度、流域の状況を勘案しながら30年に1度の洪水に対応できる規模まで治水安全度を向上させるものです。記述を修正します。

治水

資料の訂正



本文記載内容

(5)印旛沼・長門川・印旛水路
印旛沼は、「印旛沼開発事業」によって、概ね30年に1度の洪水に対応できる規模で改修が完成しましたが、流域の市街化等の進展に伴い、現在では概ね5年に1度の洪水に対応できる規模まで治水安全度は低下しました。

治水

二次内水の軽減



意見

手繰川でいえば国道296号の直下、それから、小竹川のほうは市の管理の区域との境目で、年に何回かずつ越流している。

手繰川



治水

二次内水の軽減



回答

手繰川の国道296号周辺については整備済と認識しています。また、小竹川についても印旛沼開発事業で築堤を行っていますので、堤防高は相応にあると認識しています。
県管理区間の上流は佐倉市で改修事業を実施中であり
ます。
なお、県管理区間においては、今後の浸水実態を調査したうえで、必要があれば検討します。

P27

治水

二次内水の軽減



本文記載内容

手繰川と小竹川は「印旛沼開発事業」による一次改修がなされており、その後、手繰川は、局部改良事業で再度改修され、概ね10年に1回発生する洪水(1時間に50mm程度の降雨)に対応できる現況流下能力を既に有しています。他の印旛沼流入河川の整備水準を考慮した結果、手繰川と小竹川の改修は行わず、現況の治水安全度を維持するための管理を行います。

治水

二次内水の軽減



意見

印旛沼堤防を当面は5メートルでかさ上げすることですが、沼だけではなく、河川の中流域までの築堤をあわせて行っていただきたい。

治水

二次内水の軽減



回答

計画している印旛沼堤防は、計画高まで築堤を行う計画となっています。印旛沼堤防のかさ上げとともに不足する流入河川の堤防高も確保する計画です。

P70

治水

二次内水の軽減



本文記載内容

堤防、護岸、洪水調節池などの施設がその機能を常に発揮し得るように日常的な河川巡視による異常の早期発見、状況の把握に努めるとともに必要な対策を行います。

維持管理



意見

環境のためにヨシ、マコモ等の水生植物を増やすのは良いが、水質の改善のためにそのような植物帯を活かすには、植物が吸収したものを刈り取って回収しなければいけない。



ヨシ

維持管理



回答

植生帯については、通常の法面と同様に定期的な刈り入れと回収を行います。刈り取ったヨシなどは、その利用も含めて検討の必要があります。

P70

維持管理



本文記載内容

なお、植生帯の施工においては、浄化で吸収した窒素・リン等が再び河川に戻らないような植物の利用・処分方法を含めた検討を行ったうえで設置するとともに、その維持管理に当たっては、設置された植生帯にける鳥類等の生息状況を勘察しながら、実施の時期、範囲等を検討することとします。

自然環境



意見

環境の目標が挙げられており、河川改修は詳しく出ているのだが、環境というものをもう少し考えていただきたい。

自然環境



回

印旛沼の環境の目標は、「印旛沼水循環健全化会議」で「恵の沼をふたたび」として掲げているように、従来の印旛沼の姿への回復を基本的に目指していると考えています。



2月3日 健全化会議

答

P72

自然環境



本文記載内容

印旛沼においては、治水、環境に関する喫緊の課題に対応するための「印旛沼流域水循環健全化会議」を設立し、「恵の沼をふたたび」と題して、緊急行動計画を作成して、市民団体、水利用者、行政が一同に会して計画を策定し、実践しています。これら取り組みを、河川管理者も実践するとともに、様々な取り組みを支援していきます。

親水環境



河川愛護月間の推進

意

河川愛護月間というのが7月にあり、実施している機関が果たしてどのくらいあるのか。

見

親水環境



河川愛護月間の推進

回

◆国及び県では、河川愛護月間に関係市町村や市民団体、地域住民の協力を得て、県内河川で、河川清掃などの取り組みを実施しています。もちろん、この取り組みはすべての河川で実施しているわけではありません。

答

◆今後は、このような取り組みを継続するとともに、様々な場を通じて、地域住民との情報共有や意見交換を行いながら、河川愛護活動を広げていきたいと考えています。

P72

親水環境



河川愛護月間の推進

本文記載内容

河川を身近な環境教育の場として捉え、適切な拠点の整備のほか、学習機会の提供、職員の派遣、指導者の育成、に努め、地域住民の河川愛護意識を高めることに努めるとともに、河川に関する**行事の開催**や広報活動を強化し、知識の周知や興味関心の向上に努めます。



親水環境



行事の活用

意

市民の郷土意識を高め、親水性を高めることが河川浄化に寄与すると思われる。この圏域では柏市・佐倉市等主催のマラソンが開催されており、手賀沼・印旛沼がそのフィールドになっている。多様な世論形成のために、これらの開催機会に合わせて広報し、市民の親水性を高めることができるのではいか。

見

親水環境

行事の活用



回答

印旛沼においては、治水、環境に関する喫緊の課題に対応するための「印旛沼流域水循環健全化会議」を設立し、「恵の沼をふたたび」と題して、緊急行動計画を作成して、県民大会を開催するなどの取り組みも行っていきます。

P72

親水環境

行事の活用



本文記載内容

印旛沼においては、治水、環境に関する喫緊の課題に対応するための「印旛沼流域水循環健全化会議」を設立し、「恵の沼をふたたび」と題して、緊急行動計画を作成して、市民団体、水利用者、行政が一同に会して計画を策定し、実践しています。これら取り組みを、河川管理者も実践するとともに、様々な取り組みを支援していきます。